



王のラブソング

暗唱
聖句

「わたしを刻みつけてください／あなたの心に、印章として／あなたの腕に、印章として。愛は死のように強く／熱情は陰府のように酷い。火花を散らして燃える炎」(雅歌 8:6、新共同訳)

「わたしをあなたの心に置いて印のようにし、あなたの腕に置いて印のようにしてください。愛は死のように強く、ねたみは墓のように残酷だからです。そのきらめきは火のきらめき、最もはげしい炎です」(雅歌 8:6、口語訳)

今週の
聖句

雅歌 1章～8章、創世記 2:7、Iコリント 7:3～5、ヨハネ 17:3、Iヨハネ 1:9、ローマ 1:24～27、ガラテヤ 5:24

安息日
午後
5/4

今週のテーマ

人生の季節の中で、最も大事な季節の一つは結婚です。改めて言いますが、すべての人が結婚するわけではありません。しかし、そうする者たちにとって、結婚は特別な挑戦とともに特別な祝福をもたらします。そのような祝福の中に、性生活というすばらしい賜物があります。この賜物は、適切な時と適切な場所において、なんと力強い愛の表現になりうることでしょう。

一般的な意見とは裏腹に、聖書は性行為を否定していません。聖書が否定しているのは、創造主から人類に与えられたこのすばらしい賜物の悪用です。

実際、聖書の中で最も短く、たぶん最も読まれていない書卷である雅歌は、若い花嫁(シュラムのおとめ)と、ソロモン王自身と思われる彼女の恋人との関係を描いています。この書卷は、人間の愛情表現の神秘と結婚生活における夫婦愛の喜びを明らかにしているのです。雅歌は、神と神の民、あるいはキリストと教会との関係の象徴として、しばしば比喩的に扱われてきましたが、第一にこれは、男と女の極めて実際的な人間関係の中に見られる愛に関する詩なのです。

私たちは今週、旧約聖書のこの書卷に描かれている結婚について考えます。

問1 次の聖句に基づいて、人体に対する聖書の見方にはどのような特徴があると、あなたはみなしますか。創2:7、詩編63:2〔口語訳63:1〕、84:3〔口語訳84:2〕、Iコリ6:19、20、Iテサ5:23

ある宗教は、二元論（霊の命にとって人間の体を障害とみなす哲学）を信じています。つまり、「霊」を善とみなす一方で、体は悪とみなすのです。しかし、聖書において人間の体は、その性的な特徴も含めて、全存在と一体化しています。命は、「体」と「霊」です（創2:7参照）。詩編記者は、神を礼拝するのに自身のすべてをささげています（詩編63:2〔口語訳63:1〕、84:3〔口語訳84:2〕）。神が意図された聖なる目的のために、人間のすべて（全人）が聖別され、取り分けられるべきです。

問2 性的関係とのつながりで、人体に対する肯定的見解が、雅歌の中に反映されています。次の聖句は、このような態度をいかに明らかにしていますか。雅1:2、13、2:6、5:10～16、7:2～10（口語訳7:1～9）

これらの聖なる御言葉において、人間の体はすばらしいものとされています。夫婦愛の肉体的側面は、恥ずかしいものではありません。あらゆる感情が率直に表現されています。

概して、根強い性的タブーが多くの文化の中に存在します。それゆえ夫婦は、性生活について健全な形で話し合うことが難しいとしばしば感じるのです。同様に子どもたちも、敬虔な価値観と正確な情報が融合しうるクリスチャン家庭という場で性について学ぶ機会を、しばしば奪われています。聖書は性を率直に扱い、この話題に関してより高いレベルの慰めへと神の民を招いています。人生におけるこの重要な側面が、創造主からの偉大な賜物にふさわしい敬意と尊厳を持って扱われるためです。

◆ 私たちは、性を恥ずべき動物の欲望にすぎないものとしたり、あるいは、決して話題にすべきでない何か恥ずかしいものにしてしまう文化的、道徳的な力から、どのように自分自身を守ることができますか。

問3 雅歌で示されている愛のさまざまな側面を説明してください。雅1:2、13、2:10～13、16、3:11、4:1～7、5:16、6:6、7:2～10（口語訳7:1～9）、8:6、7

雅歌は、いかに友人たちが一緒に時を過ごし、率直に話をし、互いを思いやるかを明らかにしています。雅歌の中では、2人の仲の良い友人が夫婦になります。妻は、「これがわが友なのです」（雅5:16、口語訳）と明言しています。「友」という言葉は、性的な結びつきという含みのない交際と友情をあらわしています。伴侶が親友である人は幸いです。

この詩の至る所で、親密なほめ言葉と愛情のこもったしぐさは、男女が互いに見いだす強い魅力、つまり肉体的、感情的喜びを伝えています。純愛の自然な親密さは、結婚生活において伴侶を互いに強く結びつける助けとなる創造主からの賜物です。夫婦が心の中における神の愛の働きを受け入れるとき、彼らの愛は、「洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされ」（『希望への光——クリスチャン生活編』630ページ、『アドベンチスト・ホーム』100ページ）ます。

これらの聖句はまた、愛に関する最も高尚な考えを伝えています。しかし、真の愛は人の心に生まれつきあるものではありません。それは聖霊の賜物です（ロマ5:5）。そのような愛が、夫と妻を持続的な絆で結びつけるのです。それが、若者に信頼感を与えるために、親子関係の中でどうしても必要とされる献身的な愛です。それは、キリストの体の中で信者たちを互いに結びつける自己犠牲的な愛です。雅歌は私たちに、このような愛を伴侶との関係を活気づける力とするように呼びかけています。

問4 このような親密さ（愛情表現）は、それなりに、私たちが神との間に持ちうる親密さをいかに反映していますか。（時間を費やす、全面的に自分をささげるなど）類似したどのような例を挙げることができそうですか。ほかにどのような類似するものがありますか。

多くの人が、雅歌の中に「エデンへの回帰」という主題を見てきました。描かれているカップルは最初の男女ではありませんが、この詩は最初の園を思い出させます。「二人は一体となる」(創2:24)という神の御計画が、繊細な隠喩と象徴によって終始描かれています。

問5 雅歌は、夫婦の性生活における相互依存の誓いを、どのように表現していますか(雅4:7～5:1)。Iコリント7:3～5のパウロの教えは、どのように似ていますか。

ソロモンは彼女を、「わたしと一緒にきなさい」(雅4:8、口語訳)と招き、花嫁はそれに応じます。そののち、花嫁は彼を、「わが愛する者がその園にはいつて(く)……るように」(同4:16)と招き、彼はそれに応じています(同5:1)。ここで聖書は、このような親しい場には、強制や操作があるべきでないと教えています。夫婦ともども、自由に、愛情をもってこのような関係に入るのは、「わたしの園」は「彼の園」です。

「ソロモン」も「シュラム(のおとめ)」も、ヘブライ語の「シャローム」(「平安」とか「完全」の意)から派生した名前です。彼らは互いに称賛しています(雅4:1～5、5:10～16)。彼らの関係のバランスは、対になっている行や節といった詩の文体の中にも明らかです。「恋しいあの人わたしのもの／わたしはあの人のも」(同2:16)という契約表現は、「これこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉」(創2:23)というエデンの言葉を反映しています。

問6 夫婦の結合を「知る」と表現することは、私たちと神との関係に対する理解をいかに深めますか。創4:1、25、サム上1:19、ルカ1:34、ヨハ17:3、Iコリ8:3

聖書は、夫婦の親密な結合をあらわすために「知る」という言葉を使っています。愛にあふれたこの「知識」において、彼らの最も隠された内面的に深い部分が、相手に提供されるのです。二つの体だけでなく、二つの心も「一体」になります。「知る」という言葉は、個々の人間と神との関係をも言いあらわします。交わり、誓い、無限の喜びを伴う結婚に関する独特で愛情のこもった知識は、最も高尚で聖なる神秘、すなわちキリストと教会の結合についての深い洞察を、明敏なクリスチャンにもたらすのです。

雅歌 4:8～5:1 を読んでください。雅歌 4:16 と 5:1 は、この書巻のまさに中心を成しており、あたかも、ソロモンとシュラムのおとめとの結婚が床入りによって完全なものとなるかのように、この書巻の山場を描いています。

問7 次の箇所で、ソロモンはどのようなことに言及していますか。雅 4:12、16、5:1、8:8～10

私たちは雅歌の中に、人は結婚まで性的に貞淑であり続けるという神の御計画を示す明らかな証拠をいくつか見いだします。最も説得力のある証拠の一つは、シュラムのおとめの幼さへの言及です。その時、彼女の兄弟たちは、彼女が「城壁」か「扉」か、迷っています（雅 8:8、9）。言い換えれば、彼女は結婚まで貞淑であり続けるか（城壁）、それともふしだらになるか（扉）ということです。彼女は1人の大人の女性として、自分は貞淑を守ってきたし、純潔なまま夫のもとへ行く、と断言します——「わたしは城壁」（同 8:10）であると。実際に夫は、「花嫁は、閉じられた庭、閉じられた源、封じられた泉」（同 4:12、新改訳）と言うことによって、彼女が初夜まで処女であることを裏づけています。彼女は自らの経験から、愛と結婚の道は極めて慎重に進みなさい、と友人たちに助言することができます。シュラムのおとめは雅歌の中で3回、「エルサレムのおとめたち」と呼ばれる女性のグループに話しかけ、ふさわしい時まで愛の激しい情熱を呼びさまさないようにしなさい、と助言しています（同 2:7、3:5、8:4）。ふさわしい時とは、シュラムのおとめのように、彼女たちが結婚の契約を無事に結ぶまでということです。

詩の中で「恋しい人」は花嫁を「おいで」と2回繰り返して招きます（雅 2:10、4:8）。結婚の前には、彼女は彼の招きを受けることができませんでしたが、今や、彼女が彼を自分の園へ招き（同 4:16）、彼は喜んで応じるのです（同 5:1）。彼は単に彼女の美しさに魅了されたわけではありません。彼は心を奪われ（同 4:9）、彼女の愛に酔い（同 4:10）、彼女が永遠に自分のものであることに狂喜しています——「花嫁は、閉ざされた園。閉ざされた園、封じられた泉」（同 4:12）。このような完璧な女性と結ばれることの中に、彼は約束の地に至った自分を発見するのです——「あなたの唇は蜜を滴らせ／舌には蜂蜜と乳がひそむ」（同 4:11）。

◆ 性を表現する行為において間違った選択をしたと悔いている人のために、どのような良い知らせがありますか。Iヨハ1:9、さらに詩編 103:12、イザ 55:7、ヨハ 8:11 対照

神が人間を男と女とに創造されたことには、特別な目的がありました（創1：26～28）。男も女もそれぞれ神にかたどられています、性の異なる者たちが結婚において「一体」となることは、特別な形で父、子、聖霊の神の一致を反映しています。男女の結合はまた、新しい命の創出、つまり人間独自の神のかたちの発現をももたらします。

問8 聖書は、創造主の御計画に沿っていない性行為に対して、どのような態度を取っていますか。レビ20：7～21、ロマ1：24～27、Iコリ6：9～20

聖書は、人類の中の神のかたちを変えたり、破壊したりするものをすべて認めません。ある種の性行為を禁止することによって、神は御自分の民を性の正しい目的へと導かれます。神の戒めを人間の経験に突きつけるとき、魂は罪を自覚させられます。

問9 クリスマンには、墮落したこの世における彼らの性生活や他者の性生活に関して、どのような指導が与えられていますか。ロマ8：1～14、Iコリ6：15～20、IIコリ10：5、ガラ5：24、コロ3：3～10、Iテサ5：23、24

信者は、キリストが戻られるときに罪の退廃から解放されることを待っています。彼らは信仰によって待ち、自分たちが十字架におけるキリストの死を通して罪に死に、キリストの復活を通して彼にあって生きていると考えます。絶え間ない祈り、用心深さ、そして“霊”の力によって、彼らは自分の罪深い性質を十字架につけられたものと考え、自分の思いをキリストに従わせようとします。彼らは、神が彼らの体や性の所有者であることを認め、それらを神の聖なる御計画に従って用いるのです。

神は、罪を悔いる者たちを赦してください（Iヨハ1：9）。福音は、かつて乱交や罪深い性行為に関わっていた者たちが、信者の交わりに参加することを可能にします。罪が人間の性を変えてしまった程度のゆえに、人間としての経験のこの領域において完全に回復できない人もいるかもしれません。例えば、ある人たちは、聖書によって禁じられている性的関係を持つよりは、独身生活を選ぶかもしれません。

◆ 私たちは教会として、例えば同性愛者にどう接するべきですか。彼らの性的指向に対する態度に、私たちはどう応じるべきですか。

「結婚はキリストの祝福を受けたのであるから、聖なる制度とみなされるべきである。真の宗教は、主の御計画を妨げてはならない。神は、男と女が聖なる結婚によって結ばれ、天の家族の象徴となる立派な家族を育てるようにと定められた。キリストは公生涯の初めに、すでにエデンで承認されていたこの制度に、明確な承認をお与えになった。そうすることでキリストは、結婚式の場に臨席することを拒ばれないこと、また、純潔と聖さ、真実と正しさが伴うとき、結婚が人類家族に与えられた最も大きな祝福の一つであることをすべての人に宣言されたのである」(『神の娘たち』180、181 ページ、英文)。

雅歌が示したように、性愛は結婚生活において素晴らしいものになりえます。しかし長続きする関係は、外見的美しさや肉体的喜びだけに基づくことはできません。私たちの肉体は、年を取り、衰えるので、どれほど食事療法や運動や美容整形をしようと、永遠に自分を若く見せ続けることはできなのです。ソロモンとシュラムのおとめの結婚は、一生続く献身的な関係です。彼らは三度、互いに離れられない関係にあると認めています(雅2:16、6:3、7:11 [口語訳7:10])。一度目は、互いに相手を所有していることを認め(エフェ5:21、33 対照)、[英訳聖書によれば]二度目には、順序を逆にして、彼女が服従することを認め(同5:22、23 対照)、三度目には、彼女に対する彼の願いをあらわしています(同5:24～32 対照)。このような愛は押し流されることがなく(雅8:7)、破られることのない封印(印章)に似ています(同8:6)。

話し合いのための質問

- ① ソロモンは自分の妻を完璧な者として描いていますが(雅4:1～5、6:8、7:2～10 [口語訳]7:1～9)、それは、アダムがエバを最初に見たときの表現と比較するとどうですか(創2:23)。夫は、自分の妻とどのように接するべきですか(エフェ5:28、29)。
- ② ある人たちは雅歌の中に、神と神の民、あるいはイエスとイエスの教会の間に存在する関係の比喩を見てきました。私たちは、あまりにもたとえ話として解釈しないように注意しなければなりません、この2人の関係のどういう特徴が私たちと神との関係に比することができますか。イザ54:4、5、エレ3:14、Ⅱコリ11:2 対照
- ③ 箴言31:26、雅歌5:16、箴言25:11を読んでください。私たちの言葉は、伴侶を傷つけたり、ほめたりするうえで、また結婚生活を弱めたり、強めたりするうえで、いかに重要ですか。さらなる例として、次の聖句を用いてください。ヤコ1:26、3:5～11